

令和8年度 第4回個別避難計画担当者会議 議事要旨

日時：2026年9月5日（土）14時～15時45分

場所：辻堂市民センター3階 サンキホームホール

1. 開 会

資料確認

参加者紹介（個別避難計画策定推進検討会 構成団体及び本庁担当課、関連団体）

●個別避難計画策定推進検討会

辻堂地区防災協議会

辻堂地区自治会長町内会長連絡協議会

辻堂地区社会福祉協議会

辻堂東地区民生委員児童委員協議会

辻堂西地区民生委員児童委員協議会

太平台明和会

辻堂東海岸2丁目町内会

●本庁担当課

防災安全部 災害対策課

福祉部 障がい者支援課

市民自治部 辻堂市民センター

●関連団体

西南部障がい者相談支援センター つむぎ

●参加自治会町内会（自治会町内会名等 詳細省略・当日机上配布）

各自治会町内会のご担当者の皆さま

2. あいさつ

辻堂地区防災協議会 國弘会長よりごあいさついただいた。

3. 議事等

（1）個別避難計画の概要説明について ※資料P. 1～4

辻堂地区防災協議会 加藤アドバイザーより、資料のとおりこれまでの経緯についてご説明いただいた。補足については次のとおり。

- ・他地区への活動：資料記載の鵜沼、片瀬だけではなく、明治、湘南台、藤沢地区でも取り組み始めている。

また、辻堂地区の作成実績について、辻堂市民センターより次のとおり説明した。

- ・令和7年度までで475件、令和8年度に入ってから4件で計479件。
- ・着手できる自治会での作成が令和7年度である程度終了していて、要支援者の追加分を作成しているという状況と思われる。
- ・47自治会中16自治会なので、今後作成を推進していくためには、作成済の自治会町内会のサポートに加えて、着手の難しい自治会町内会へのはたらきかけも必要。
- ・今日いただいたご意見も踏まえながら、今後も皆様とともに作成を進めていきたい。

(2) 主要な変更点

2-1. 要支援者名簿の「障がい者」への対応について 資料P. 5～15

辻堂地区防災協議会 加藤アドバイザーより資料のとおりご説明いただいた。なお、要点及び補足については次のとおり。

- ・安心安全プランの帳票③が個別避難計画に類似するものになっている。
- ・違いは家族の緊急時連絡先が入っていること、「誰が」（避難支援者）の部分が3枠あること。
- ・本人が望めば個別避難計画、安心安全プラン両方とも作成していても良いが、その際は整合性が取れるようにしてほしい。また、希望がなければ片方が作成されていればよいが、その際は福祉事業所が作成する安心安全プランにも自治会町内会が携わり、「誰が」（避難支援者）の3枠のうち1枠を自治会町内会が担うことで地域とつながれるようにしていただきたい。

また、安心安全プランについて、障がい者支援課より次のとおり説明した。

- ・令和2年ごろから作成が始まっていたが、当時は作成を対応してくれる福祉事業所のサポートがメインだった。
- ・その期間を経て、現在は障がいのある方と実際に作成するようになっている。
- ・チラシ等で案内する中で興味を持っていただいた方には、専属のサポーターがいる場合はその方と、いない場合は相談支援センター等と作成している。
- ・作成実績は伸び始めており、現時点で160件ほど。今後も普及活動を進めていく。

●つむぎからの補足

- ・色々なケースがあり、自治会町内会が直接声をかけに行くのが難しいケースもあると思う。そんなときはつむぎも同行させていただき、協力していきたい。
- ・本日所要で欠席だが、つむぎの他にも、辻堂西・辻堂東いきいきサポートセンターや辻堂地区のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）も同様に対応しているので、ご承知おきいただきたい。

2-2. 福祉避難所への直接避難について 資料P. 16

辻堂地区防災協議会 加藤アドバイザーより資料のとおりご説明いただいた。なお、要点及び補足については次のとおり。

- ・指定避難所→1次福祉避難所→2次福祉避難所という流れが基本となっているが、移送の負担といった課題がある。
- ・そこで、福祉施設への直接避難について、内閣府のガイドラインに促進する旨が記載された。そのことを踏まえての辻堂地区における対応策が資料のとおりとなる。

(3) 県内他地区の進捗状況（藤沢市 災害対策課） 資料P. 4

災害対策課より次のとおり説明した。

- ・県内近隣で作成が進んでいるのは寒川町や開成町、愛川町となっている。
- ・作成割合が高い市町村は要支援者の総数が多くないと聞いている。
- ・要支援者としての条件は市町村ごとに異なっていて、藤沢市は他市町村に比べると、該当する人が多くなるような条件付けになっている。
- ・辻堂地区がモデル地区として進める中で得たノウハウや直面した課題を他地区で作成進める中で活かさせていただいている。

(4) 今後の辻堂地区での活動の展開について 資料 P. 17

辻堂市民センターより資料のとおり説明した。

●加藤アドバイザーより補足

- ・ 昨年の防災講演会で防災を通じた地域づくりについてご講演いただいた。そのなかで、人と人をつなげる個別避難計画がまさに地域づくりであるという話があった。
- ・ 単に防災のものとして個別避難計画があるのではなく、隣近所の方とのつながりづくりにもなるという視点でもって、辻堂市民センターをはじめ地域の方々とともに、作成していきたい。

4. 自治会間での情報共有

グループ内で課題や疑問点を共有

(例1) 個別避難計画をさらに推進するにあたっての課題・問題点

(例2) “福祉×防災を織り込んだまちづくり”について、等

A 班：太平台明和会 ほか

- ・ グループ内には、まだ個別避難計画を作成していない自治会と、一部始めた自治会、3年前から手掛けている自治会があった。
- ・ 作成の進め方も様々で、重度の方から始めて、段々と軽度の方に進めている自治会もあれば、最初から程度に限らず着手している自治会もあった。
- ・ 要支援者名簿の見直しについて、5年に1度の更新で支援が必要な方が掲載されなくなってしまうところに課題があるように思う。

B 班：高砂自治会 ほか

- ・ グループ内の多くの自治会が着手済みであった。これからの自治会も作成手順や更新方法の確認が本日できたので、今後進めていきたい。
- ・ 自治会町内会の役員が変わるタイミングで、次年度の役員に引き継ぐことが大切。

C 班：辻堂南海岸町内会 ほか

- ・ グループ内には作成している自治会と、作成済みだが提出がこれからという自治会があった。
- ・ 作成の仕方について、対象者が少なくすべて民生委員とともに対応している自治会もあれば、軽度の方は防災部長のみ、重度の方は防災部長が会長、民生委員とともに周るという自治会もあった。

D 班：駅前町内会 ほか

- ・ 地域のつながりが強いところから引っ越してきた方から見ると、資料で個別避難計画の作成割合が低いとあった神奈川県は、地域住民の団結力が弱く感じる。
- ・ ちょっとした「おせっかい」がつながりづくりのきっかけになったりするので、機会があれば行動していきたい。

E 班：富士見ヶ丘自治会 ほか

- ・ 集合住宅が多い自治会と個別住宅が多い自治会で作成手順に違いを感じた。

- ・先日夜中の２時にアラームなった時に、何をしていたか分からない、何もできなかったということがあります、紙を作るところまでで終わってしまっているなど感じた。今後どのように行動に結びつけていくかが課題だと思う。

各班の発表を受けて

●災害対策課から

- ・避難行動要支援者名簿から漏れている人が今回特に多かったのは、これまで５年に１度の更新の際、以前提出済だった人を自動更新にすることができなかったため。５年に１度の更新時に同意書が出されなかった時にどうするか、対応方法検討したい。
- ・自治会町内会の中で、掲載が漏れている方を見つけたら、ご連絡ください。

●加藤アドバイザーから

- ・個別避難計画に限らず、つながりづくりのきっかけは地域で様々なチャンスがある。例えば、市民センターまつりや、地区総合防災訓練など。辻堂では、地区総合防災訓練は障がいのある方の参加をサポートしている。せっかく作った計画なので、平時の取組でもご活用いただきたい。
- ・これから作成の方は直接でもセンター経由でもいいので、わからないことがあればお声がけいただきたい。スターターキットのようなものもご用意している。

５．その他

（１）防災シンポジウムの紹介 ※チラシ参照

肢体不自由児者父母の会の主催でシンポジウムだが、一般参加も可能。

（２）全体を終えての質疑応答

- ・安心安全プランは自治会町内会で作成するものか
→作成は相談支援事業者が行っていくもの。自治会町内会におかれては、個別避難計画作成の際に障がい特性によって作成が難しかった際には、安心安全プランの作成につなげていただければと思う。
- ・個別避難計画と安心安全プランは両方とも作成してよいか
→両方作成しても良い。
- ・自治会内に高齢者施設があり、７０～８０人の入居者がいるが、自治会町内会の加入者ではなく、本人に直接訪ねることができてない。施設と自治会で協力して何とかできないかと考えている。ご家族の許可がないと面会できなかつたりするのは課題。施設の職員がいなくて発災したら、地域の力が必要になるはずなので、市としても検討いただきたい。
→業務継続計画で施設としてどう避難させるかは考えているがおっしゃるとおりなので、課題として認識していきたい。
- 自治会視点だけではなく、施設の視点も大切で、地域の方が押し寄せた時にどうすればいいかという課題がある。直接避難のこともあるが、これからどうするか考えていかなければならないことだと思う。

６．閉 会

以 上